

第59期 報告書

令和7年4月1日～令和8年3月31日



ホテル立山5階ロビー

立山貫光ターミナル株式会社

事業概況 (令和7年4月1日～令和8年3月31日)

令和7年度の事業概況についてご報告申し上げます。

令和7年度は、世界的な地政学リスクや国際情勢の不安定化に加え、円安基調の継続による物価およびエネルギー価格の高止まりなど、先行きに不確実性を伴う経営環境のもとで推移しました。観光業界においては、訪日外国人旅行客の客数や旅行消費額がともに過去最高となる一方、宿泊料金の上昇やオーバーツーリズムなどの課題も顕在化しております。

そうした中、立山黒部アルペンルートの営業再開に合わせ、宿泊及び飲食・物品販売の各店舗は、4月15日に営業を再開し、11月30日まで営業いたしました。

営業の推移を概観いたしますと、立山トンネル電気バスの運行開始をはじめとする新たな話題性や、四季折々の魅力を訴求した各種イベントの実施、デジタルを活用した情報発信等により、シーズンを通して多くのお客さまにご利用いただき、営業を終えることができました。

この結果、ホテル立山宿泊人員は合計28,037人（前期比104%）となり、当期の営業収益は、ホテル立山収入9億27百万円（前期比107%）、店舗（飲食・物品）収入13億36百万円（前期比114%）となり、店舗外収入22百万円、賃貸収入1億89百万円を加えた営業収益合計は24億75百万円（前期比110%）となりました。

営業費につきましては、前期から引き続き、経営全般にわたる業務の効率化や勤務体制の合理化による費用抑制に努め、営業費合計は19億18百万円（前期比105%）となりました。

これに、営業外収益26百万円、営業外費用6百万円を加減した当期の経常利益は5億77百万円となりました。さらに、法人税等並びに税効果会計による法人税等調整額を加減した結果、3億91百万円の当期純利益を計上しました。

部門別営業成績は次のとおりであります。

ホテル立山宿泊営業成績表（令和7年度）

項 目		実 績	前期比%
営 業 日 数	日	226	98
宿 泊 人 員	人	28,037	104
一 日 平 均 宿 泊 者 数	人	125	106
営 業 収 入	千円	927,736	107
宿 泊 収 入	千円	918,582	106
雑 収 入	千円	9,153	118
一 日 平 均 収 入	千円	4,105	108
客 室 数	室	81	100
延 使 用 客 室 数	室	12,962	104
客 室 回 転 率	%	71	105
宿 泊 定 員	人	260	100
宿 泊 効 率	%	48	106

（備考）

営業期間（当期）

令和7年4月15日～令和7年 6月29日

令和7年7月 4日～令和7年11月30日

（宿泊日数224日）

営業期間（前期）

令和6年4月15日～令和6年11月30日

（宿泊日数229日）

室堂飲食及び物品販売業営業成績表（令和7年度）

項 目		実 績	前期比%
【店舗営業】			
店 舗 営 業 日 数	日	230	100
室 堂 到 達 人 員	人	721,159	106
店 舗 営 業 収 入	千円	1,336,258	114
食 堂 収 入	千円	453,357	121
喫 茶 収 入	千円	286,211	114
物 品 販 売 収 入	千円	589,406	109
雑 収 入	千円	7,283	120
一 日 平 均 収 入	千円	5,809	114
店舗営業収入／室堂到達人員	円	1,853	108
【店舗外営業】			
店 舗 外 営 業 収 入	千円	22,244	90
P B商品販売収入	千円	2,556	30
物 品 販 売 収 入	千円	19,646	122
雑 収 入	千円	41	99

（備考）

店舗営業期間（当期）

令和7年4月15日～令和7年11月30日

店舗営業期間（前期）

令和6年4月15日～令和6年11月30日

財産および損益の状況の推移

区 分	第 5 6 期 （令和 4 年度）	第 5 7 期 （令和 5 年度）	第 5 8 期 （令和 6 年度）	第 5 9 期（当期） （令和 7 年度）
売 上 高（千円）	1,424,536	1,909,485	2,253,568	2,475,707
当 期 純 利 益（千円）	83,561	336,847	520,198	391,027
1 株 当 たり 当 期 純 利 益	92円84銭	374円27銭	577円99銭	434円47銭
総 資 産（千円）	1,530,378	1,640,515	2,035,086	2,608,512

令和8年度の取り組み

1. 収益力の維持・向上と持続可能な事業運営へ向けて

コロナ禍で急激に低下した収益力の回復と、次世代の投資に向けた資本蓄積を基本方針の柱に掲げ、2020年12月に策定した中期経営計画（2021～2025年度）は、令和7年度が最終年となりました。種々の事業構造改革を実行し、財務基盤の再構築を着実に進めた結果、業績は回復基調にあります。令和8年度からは新たな中期経営計画（2026～2030年度）を策定し、「成長と投資」を基本方針として、安定的な収益基盤の確立を最重要課題に位置づけております。グループとしては、室堂ターミナルビルの改修工事を進めるほか、DXへの投資等を計画しております。

当社はこれまで、室堂ターミナルにおける宿泊事業並びに立山黒部アルペンルートにおける飲食・物販事業に経営資源を集中してまいりました。ホテル立山の宿泊営業終了後も、収益力の一層の強化に向け、高付加価値商品の提供に取り組んでまいります。飲食・物販事業においては、商品・メニュー開発および店舗の最適化を通じ、顧客満足度の向上と滞在消費の拡大を図ってまいります。

今後とも、立山黒部アルペンルートの体験価値向上を通じ、持続的な企業価値の向上に努めてまいります。

2. 宿泊・食品の安全確保と自然保護

当社施設や食品の安全については、お客様が安心・信頼してご利用いただけるよう、今後とも万全を尽くしてまいります。施設の日常点検と整備、並びに食品の衛生管理と品質管理を徹底してまいります。

また、特異な環境に配慮した施設設備の維持更新やごみ処理対策の徹底等、引き続き立山黒部の大自然を守り伝えるための努力を続けてまいります。

今後多くのお客様に支持していただき、選び楽しんでいただける立山黒部アルペンルートへと進化するために、役職員一同全力を傾注してまいります。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

財務諸表

貸借対照表の要旨

(令和8年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
流動資産	1,087	流動負債	323
現金及び預金	981	支払手形	66
売掛金	0	買掛金	7
未収金	10	短期借入金	6
未収法人税等	1	関係会社短期借入金	70
商 品	14	未 払 金	1
貯 蔵 品	44	未 払 費 用	24
前 払 金	8	未 払 法 人 税 等	68
前 払 費 用	25	未 払 消 費 税 等	24
そ の 他	0	預 り 金	4
		前 受 金	8
		前 受 収 益	0
		賞 与 引 当 金	38
固定資産	1,521	固定負債	758
有形固定資産	1,078	長期借入金	15
建物	456	関係会社長期借入金	228
建物付属設備	233	退職給付引当金	481
構築物	52	長期未払金	1
機械及び装置	8	繰延税金負債	31
車両及び運搬具	23	負債合計	1,081
器具及び備品	118	(純資産の部)	
土地	119	株主資本	1,295
建設仮勘定	65	資 本 金	10
無形固定資産	2	資 本 剰 余 金	83
ソフトウェア	1	その他資本剰余金	83
電話加入権	1	利 益 剰 余 金	1,201
投資その他の資産	439	その他利益剰余金	1,201
投資有価証券	373	繰越利益剰余金	1,201
関係会社株式	35	評価・換算差額等	230
そ の 他	31	その他有価証券評価差額金	230
		純資産合計	1,526
資産合計	2,608	負債・純資産合計	2,608

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。また、消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

損益計算書の要旨

(令和7年4月1日～令和8年3月31日) (単位：百万円)

科 目	金 額
売 上 高	2,475
売 上 原 価	494
売 上 総 利 益	1,981
販売費及び一般管理費	1,424
営 業 利 益	557
営 業 外 収 益	26
営 業 外 費 用	6
経 常 利 益	577
特 別 利 益	0
特 別 損 失	0
税引前当期純利益	577
法人税、住民税及び事業税	68
法人税等調整額	117
当 期 純 利 益	391

株主資本等変動計算書

(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

(単位：百万円)

		株 主 資 本			評価・換算差額等	純資産 合 計	
		資本金	資本剰余金	利益剰余金	株 主 資 本 合 計		
			そ の 他 資本剰余金	その他利益剰余金			
				繰越利益剰余金			そ の 他 有 価 証 券 評価差額金
当 期 首 残 高		10	83	810	904	90	995
当 期 変 動 額							
	当 期 純 利 益			391	391		391
	株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					140	140
	当 期 変 動 額 合 計	0	0	391	391	140	531
当 期 末 残 高		10	83	1,201	1,295	230	1,526

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要／役員 (令和8年6月30日現在)

●設立年月日 昭和42年12月24日	●役員 代表取締役社長 常務取締役 常務取締役 常務取締役 取締役 取締役 取締役 監査役 監査役	見角 要 田草川健二 杉林 義宏 内山 高宏 中田 邦彦 清水 智則 桔梗 克彦 出来田 肇 新庄 一洋
●資本金 1千万円	経営管理本部長・ プロジェクト推進室担当	
●発行済株式総数 900,000株	経営管理本部副本部長・ 技術環境部長 経営管理本部副本部長・ 総務部長・ホテル事業部担当	
●株主数 2名	経営企画部長・経理部長 営業推進部長	
立山黒部貫光株式会社 富山地方鉄道株式会社		

アルペンルートと会社のあゆみ

昭和27年 4月 1日	立山開発鉄道株式会社（TKR）設立（資本金2,500万円）
29年 8月13日	鋼索線（千寿ヶ原～美女平）営業開始
30年 7月 1日	高原バス（美女平～弘法）営業開始
31年10月 4日	弥陀ヶ原ホテル営業開始（TKR）
35年 5月 8日	立山黒部有峰開発株式会社（TKA）設立
39年 6月20日	高原バス全線（美女平～室堂）営業開始
8月 1日	関電トンネルトロリーバス（扇沢～黒部ダム）営業開始
11月 7日	TKA第34回取締役会で新会社（TKK）設立を決議
12月25日	立山黒部貫光株式会社（TKK）設立（資本金4億円）
42年12月24日	立山貫光ターミナル株式会社（TKT）設立（資本金3,000万円）
44年 5月 8日	室堂ターミナルビル建設工事着工
7月20日	黒部ケーブルカー（黒部湖～黒部平）営業開始
12月 9日	立山トンネル貫通
45年 7月 1日	富山～信濃大町間を「立山黒部アルペンルート」と命名
7月25日	立山ロープウェイ（黒部平～大観峰）営業開始
12月15日	一般自動車道 桂台～美女平間供用開始（TKA）
46年 4月25日	立山トンネルバス（室堂～大観峰）営業開始
6月 1日	立山黒部アルペンルート全線開業
47年 8月28日	室堂ターミナルビル全館完成
9月 1日	ホテル立山営業開始
54年10月 1日	TKKとTKAが合併
61年 4月11日	宇奈月国際ホテル新築工事着工
62年 9月21日	宇奈月国際ホテル営業開始
平成 2年10月 1日	立山黒部サービス株式会社（TKS）設立（資本金1億円）
12年 4月 1日	弥陀ヶ原ホテルTKRから経営受託
17年10月 1日	TKKとTKRが合併（存続会社 立山黒部貫光株式会社）
21年 4月 1日	宇奈月国際ホテルTKKから経営受託
令和 3年 3月31日	宇奈月国際ホテル、弥陀ヶ原ホテル TKKとの経営委託契約を解消
4年 9月 1日	ホテル立山 開業50周年記念日
6年 3月29日	ホテル立山不動産譲渡
7年 4月15日	立山トンネル電気バス営業開始
8年 4月15日	タテヤマアルペンストア立山駅リニューアル

ご案内



標高2450メートル、星にいちばん近いリゾート。

政府登録国際観光ホテル／日本ホテル協会会員

〒930-1414 富山県中新川郡立山町芦峯寺室堂

☎ (076) 463-3345 FAX (076) 463-3348

<https://h-tateyama.alpen-route.co.jp/>

(編集・発行) 立山貫光ターミナル株式会社

〒930-0003 富山県富山市桜町1-1-36

☎ (076) 441-3331 (代表) FAX (076) 433-1185